

東海支部 この一年の活動を振り返って

12期 神谷 達司

まずは明治大学グリークラブ創立50周年おめでとうございませう。我々OBがその半世紀にわたる歴史の中にいたことは大変誇りに思うと共に心から感謝しています。記念式典で皆さんと一緒に歌ったとき、改めて「ああ、男声合唱は本当にいいなあ」と思いました。我々OBは、この「ハモッタ」時の感動をいつまでも忘れることなく、それぞれの場所で活動を続けていかなければ、と思えました。

さて、東海支部のこの一年の活動は、イコール、男声合唱団「ダンディ・ライオンズ」の活動であります。17名の団員で、1月に地域のコーラス交流会への出演、5月に地元老人福祉施設「陽だまりの丘」でのミニコンサート、7月には我々が練習会場としていた妙行寺の地域行事への賛助出演、11月には「デイケアサービス向島」でのミニコンサート、そして総仕上げとして12月4日に齊藤会長をお招きし、支部総会を兼ねた、歌いまくりの忘年会を催行しました。

ミニコンサート等の活動の中でいつも感じるのは、本当に皆さん一生懸命聴いてくださる。コンサートの始めに男声だけのコーラスがどんなものかを知ってもらうために「カデンツァ」を

披露すると感嘆の声があがります。その後の合唱もできるだけ聴いてくださる皆さんが知っている歌をご披露する訳ですが、その中でも根強い人気があるのは、有名な水戸黄門の主題歌「ああ人生に涙あり」、日本民謡の「斎太郎節」で、皆さん身をのりだして、手拍子もあり、はたまた時々「掛け声」もあがり大変盛り上がりま

す。ハーモニーを自分たちで楽しむのも合唱の楽しさですし、それを観客の皆さんと共有するのもその楽しさです。老人施設の皆さんにとって、「コーラス」は普段ご縁のないもので、どちらかといえば「歌謡曲・演歌」の方が聴きなれていらつしやるので、はたして男声合唱を喜んで聴いていただけるものか不安でした。しかしコンサートが始まると、そのハーモニーに熱心に耳を傾けて聴いてくださるし、知っている歌には身振り手振りですべて答えてくださる。ダンディ・ライオンズの活動の基本スタンスはここにあるな、と思えました。

しかし、やはり男声合唱団ダンディ・ライオンズとして定期演奏会を開催したい、という思いが全団員の心の中にありました。それがついに念願かない、今年の10月22日(土)に地元の声楽合唱団とのジョイントという形で演奏会を開催することになりました。場所は東文化小劇場という350席ほどの小ホールです。今、それに向かい、全団員一生懸命練習に励ん

でいます。中京地区にも多くの合唱団があり、男声合唱団の中には大変レベルの高いところもあります。もちろん我々も常に技術的なレベルを高めたいことはやぶさかではありません。



＜ダンディ・ライオンズの演奏風景＞

ません。しかし、ダンディ・ライオンズにしかない大切なものを我々は持っています。それは「絆」です。明治大学グリークラブと立命館大学メンネルコールとの長い歴史を経てきた絆がダンディ・ライオンズのOBたちによっても受け継がれていることとは何にもまして大切なことだと思っています。今の団員一人ひとりの心にはその思いが強くあります。これからもこの絆を大切に、次世代のOBたちに引き継いでいけるように地域での合唱活動をしていきたいと思っています。

現役定期演奏会感想

聴きごたえ、

ありました！

23期 根本 宏太

平成22年12月18日(土)、三鷹市芸術文化センター「風のホール」で開催された現役の定期演奏会を聴きました。

最初に全体の感想ですが、今回は1年生16名を加え、総勢33名という、最近では一番多い人数がオンステしたこともあり、聴きごたえのある、素晴らしい演奏会でした。

第1ステージの「現代宗教曲選」、そして第2ステージの「Japanese Cool」は、どちらの「アンソニー」は、どちらも残間賢人君の指揮のもと、よくまとまった演奏でした。

しかし、ハーモニー部分がとても良いのに比べ、パートソロ部分での音色の統一、声の厚みという部分では、各パートとも課題を残したと思います。

第3ステージのOB三好草平氏(42期)を客演に迎えての「音の音楽旅行」世界の民族音楽は、様々な倍音楽器とケルト笛という、男声合唱では珍しい伴奏付きの趣向をこらしたステージで、楽しんで聴くことができました。

そして最終ステージは、外山浩爾先生の指揮、小林功先生のピアノ伴奏による「くちびるに歌を」。外山先生の指揮のもと、若々しさに溢れた、最終ステージを飾るのにふさわしい素晴らしい演奏でした。

最後に、今回の定期演奏会を聴いて改めて感じたこと

ダンディ・ライオンズ団員募集のお知らせ

今回、ふんげるめいるの紙面をお借りして、広く団員の募集をさせていただきます。

東海地区に在住のOBの皆さんは勿論のこと、その他の地区にお住まいの方でも「我こそは」と思われる方は、ぜひ一度ご連絡ください。

現在の団員数は17名、うち明治グリーOBが6名、立命館メンネルコールOBが11名です。団長は渡辺元秀(メンネルOB、グリー5期と同期)、副団長は林和宏(10期)、指揮者はメンネルOBの樋口真一(グリー13期と同期で当時の学生指揮者)です。

まずは団員を20名以上になりたいと思っています。ダンディ・ライオンズの誕生のきっかけとなりました両校の絆にご賛同

いただけるOB諸氏はぜひご入団いただけたらと思う次第です。

練習は月に3回、第1・2・4の主曜日午後4時から7時まで、場所は妙行寺という古刹から比較的近いお寺の本堂をお借りしています。無論、仕事のため毎回参加は無理な方、また午後4時からの参加が無理という方も、都合のつく範囲で参加いただけたらと思います。

入団についてのご質問等がありましたら、神谷までお願いいたします。

男声合唱団ダンディ・ライオンズ
マネージャー 神谷 達司(12期)
連絡先 携帯 090(4088)1635
自宅 052(832)7583

は、部員数を増やすことの大切さです。今年も、昨年の16名を超える1年生がグリーに入部するよう、OB会としても支援をしていきたいと思います。

現役主将あいさつ

一年を振り返って

熊谷 知郁

思い返せば、あつという間の1年でした。先輩たちの背中を追ってればよかった時期が終わり、ついに自分たちが先頭に立った2月。期待と不安で胸がいっぱいでした。今年が創部から50周年という記念すべき年でもあったので、きつと充実した1年になるだろうと感じていました。予想は見事に当たり、楽譜に嘯り付き、ただひたすらに六連・明立定演と駆け抜けていったように思います。その過程で、先輩たちが自分たちの知らない所でどれだけの苦勞をしていたのかを知りました。そして、それを微塵も感じさせなかった先輩方の偉大さに憧れると共に、自分たちはそんな先輩になれたのだろうかと不安に思った時もありました。ですが今は、50期らしい1年を作れたと思っています。これからはOBとして、後輩たちの作っていく明グリーを楽しみにしていきたいと思っています。末筆になりましたが、OB会役員の皆様方には、大変お世話になりました。本当にありがとうございます。